

佐渡山行観光報告（平成 28 年 5 月 13 日（金）－15 日（日））

佐渡ヶ島は金山やトキの島として知られているが実はそれだけではなく、春の雪解けとともにいろいろな花が咲き出す「花の島」としても有名なのである。さらに低山とはいえ最高峰の金北山を目指す大佐渡山脈の縦走も、海と花を見ながらの 6 時間を超えるロングトレイルを楽しむことができる。花のシーズンは混雑して宿の確保が難しいので、金曜日出発としたが、伊藤、岩井、小澤、後藤、三浦の 5 名が参加することになった。

13 日（金）は東京駅で小澤さんと合流、7 時 00 分発の新幹線に乗り新潟を目指した。8 時 59 分に新潟駅に着き、そのままタクシーで新潟港に向かう（¥990）。10 時 40 分発のジェットfoilは時速 80Kmを出しながら静かに海上を滑るように走り、わずか 1 時間 05 分で両津港に着いてしまった。両津港では、昨夜の夜行バスを利用して先に着いていた岩井・後藤・三浦の皆さんがお待ちかね、無事合流して全員集合となった。

さっそくタクシーに乗り込み 11 時 15 分、アオネバ（青粘）登山口に着いた。まずは準備運動をして 30 分に登り出そうと思ったら、登山口には「放牧牛に注意」の看板が出ていた。「熊」の間違いでなく、そもそも佐渡島には熊も鹿もないそうだ。おかげで高山植物が食べられずに豊富に残っている、というのは小澤さんの受け売りである。さて登り出すと、沢に沿った道はぐちゃぐちゃで、最初は泥んこの道が多い。期待したほど花は無く、オオイワカガミやヒトリシズカくらいだろうか。それでも快晴の青空の下新緑が鮮やかな林の中を谷川の水音を聞きながらの山歩きは気持ちが良い。とはいえ、何せ沢沿いに登るのでひたすら登りであり、岩井さんは苦戦したが頑張っけて付いてくる。木陰を歩いても暑くなるが、所々で沢を渡り対岸に行く場所があり、流れる水で顔を洗うと冷たくて生き返る。花は少ないがずっとオオイワカガミがあり、上流に行くとニリンソウが沢山咲いていた。途中で 2 人組に出会った以外は全く人のいない静かな山道であった。

少しずつシラネアオイの花が目立つようになり、13 時 40 分ようやくアオネバ十字路に着いた。谷に沿ってひたすら登りでお疲れ様でした。通る人もいないだろうと、縦走路に座りこんで遅めのお昼にする。最初の予定ではこれから尻立山を経由して宿に行くつもりであったが、登りはもういいやとドンデン山荘に直行することにして 14 時 30 分に出発した。ほとんど平らな歩きやすい道を 10 分くらい行くと立派な舗装道路に出る。くねくね曲がった車道を上り気味に歩き、15 時 10 分にドンデン山荘に着いた。

山荘とは言っても旅館のような造りである。人気のシーズンなので満室であったが、三浦さんの得意の交渉術で 1 部屋確保してもらった。受付で明日の昼食をお願いすると、「6 時出発なら昼には白雲台に着くから、そこで暖かいものを食べた方がよいよ」と商売っ気の無いアドバイスをいただいたので、明日のお昼は手持ちのパンなど携行食で我慢することにした。通された部屋は「プラネタリウム室」の表示があり、入ってみたら本当にプラネタリウム室であった。普段はプラネタリウムを見せたり談話室に使ったりしているが、混雑時には臨時に客室にするらしい。他に追加の客があったら相部屋になるかもしれない

と言われたが、幸い誰も来ず定員 18 名の大部屋を我々が独占した。

さて、まずはお風呂に入ると温泉ではないようで浴槽もプラスチックで味気ないが、歩いた後で汗を流せば最高である。入浴後はさっそくビールで乾杯、飲めない岩井さんには申し訳ないがウーロン茶で参加していただいた。疲れたがまずは天気で良かった、などとよもやま話をしているうちに 17 時 40 分ごろ夕食となった。夕食は、食堂が満員なので我々だけ贅沢に部屋食となった。しっかり食べた後は再度飲み出す人もいて日本酒なども登場した。私は 20 時ごろには沈没してしまい、広い室内にバラバラに布団を敷いたのでいびきも気にならなかったが、早く寝すぎて午前 1 時ごろ目が覚めてしまった。岩井さんの報告では、月明かりが強すぎて星はあまり見えなかったそうだ。

14 日（土）、5 時ごろ起床、今日も快晴で山や海が良く見える。朝食は 6 時 30 分からなので、弁当にしてもらい部屋で朝食とする。おにぎり 2 個の朝食（昼食も同じらしい）を食べ終わり外に出ると雲海が海上を覆っているが山ははっきり見えている。朝の体操をしている団体をしり目に、記念写真をシッカリ撮って 6 時 05 分に出発した。

先ずは、昨日来た道に戻り 6 時 35 分にアオネバ十字路に着いた。これから向かうは「マトネ」という山だが、佐渡には実に不思議な名前が多い。すでに出た、アオネバやドンデン、マトネなどがあり、この後も次から次へと不思議なカタカナの地名が登場する。それはさておき、目の前に山がそびえているが幸いなことにこの山は巻道でむしろ下り気味に行く。道の両脇には新鮮なシラネアオイやまあまあのカタクリが咲いている。その後上り道となってひと汗かいたが、これが本日最大の登りだったかもしれない。7 時 35 分にマトネ山頂に着くと、前方に山並みが遠くまで続きその先にかすかに金北山が見えている。本当にあそこまで行けるのだろうかと心配になるが、ここまで来たら行くしかない。

ここからは見晴らしの良い明るい尾根歩きとなり、下には海も見えている。一部ザレているところもあるが、歩くのにはほとんど問題ない。主に木の無い尾根道ではあるが一部樹林帯もあり、その足元にはカタクリやシラネアオイが沢山咲いている。昨日はすでに花は終わりかと思ってがっかりしたが、標高の差のせいはこちらの花は健在である。さらにあちこちにはシャクナゲやツツジのつぼみが多く、もう少しでツツジは見ごろであろう。花の島を堪能するには何回も来なくてはならないようである。

見晴らしの良い真砂ノ峰から見る金北山は大分大きくなってきたがまだ先である。9 時 40 分にイモリ平で休んでいると 2 人組に追越された、今日初めて会う人である。10 時 35 分に天狗の休み場に到着、昼食とする。といっても白雲台に着いたらしっかり食べる予定で宿にお弁当を頼まなかったもので、皆が持ってきたパンなどの携行食でごまかした。広い芝生で休んでいると 20 人近い団体が追い付いてきて一気ににぎやかになった。とりあえずお腹もごまかせたし、休憩もしたので 11 時 10 分出発する。

この先は樹林帯が多くなり、シラネアオイやカタクリがどんどん数を増してくるので女性陣は大喜びである。さらに林の中には白い花の付いた高い樹が目立ちだす。大きな花び

らが垂れ下がっており、モクレンだろうかコブシだろうかと首をひねったが、三浦さんが「タムシバ」だと教えてくれた。小澤さんは「サシバでしたっけ？」などとおどけている。下を見ればシラネアオイやカタクリが、上を見ればタムシバやヤマザクラと青空、という素晴らしい景色を見ながら歩いた。花は良いのだが、樹林帯には小さな虫が沢山飛んでいて、ひ弱な女性陣は虫刺されに悩んでいたが、私は全く食われなかった。金北山が目の前に大きくなり出し、手前のあやめ池ではカエルの声が大きい。道の真ん中にカエルの卵があるのは、そそっかしい親が、水たまりに産んだら水が引いてしまったからだろうか。最後に斜面を登り切って、12時55分ついに金北山山頂(1,172m)に到着した。

山頂は大きな工場のような建物に占領されていてどこが山頂かわからない。昔の米軍のレーダードームらしいが、今は使われていないそうで錆びて廃墟のようになっている。よく見ると大きなレーダードームの間に挟まれるように小さな神社があり、かろうじて「金北山」の標識があった。記念写真を撮っていると先ほどの団体が追い付いて来て狭い山頂がにぎやかになった。「下にトイレがあります」と団体のリーダーが叫んでいるので、先に行くことにして13時10分下山した。5分ほど下ると仮設のトイレが2個あり、我々が用を足した後に女性の集団が来て長い列を作った。このあたりでは携帯電話が通じるので昨日乗ったタクシーに15時過ぎに白雲台に来てくれるよう頼んだ。

ここからは長い車道歩きとなり、日差しを遮るものが何もない埃っぽい道路を、自衛隊の新式レーダー施設を見ながら歩く。この道路は自衛隊の管理道路なので通行するには事前に届け出が必要である。一応Faxで届は出したが、どこかにゲートがあってチェックされるものと思っていたが、最後までゲートもチェックもなかった。お昼は簡単に食べたのでお腹が空いており、白雲台で美味しいものを食べるのを楽しみに長い単調な道を歩いた。

14時30分白雲台に着くと、タクシーがすでに待っている。15時過ぎに来るはずなのでその間に美味しいものや冷たいものを楽しみにしてきたが、待たせては悪いのですぐに乗り込んだ。ところが一人だけ、タクシーを待たせて缶ビールを買い込んだ人がいた。ああやっと着いた、という感激も無いままにあわただしく乗り込み、15時20分ごろ両津港に着いた。小澤さんは今日中に帰京しなければならないので一人寂しく港に向かっていった。

あとの4人はそのまま旅館に向かい、港からすぐ近くの旅館「花月」に着いた。明日は佐渡観光なのでタクシーの運ちゃんと値段の交渉をしたが、あまり負けるようなことを言わないので検討することにした。旅館に入ると4人で一部屋である。実は明日自転車のロードレース大会があるそうで、旅館は軒並み満室なのである。タクシーの運ちゃんも、「良く部屋が取れましたね」というくらいで、一部屋でも取れたのは我が三浦さんの得意の交渉術の賜物なのであろう。まずは温泉に入って今日1日の汗を流す。温泉はアルカリが強いとかで黒くてヌルヌルするが、貸し切り状態の温泉でゆっくり手足を伸ばした。

お風呂から出た後は当然冷えたビールで反省会、天気が良くて花も多かったし素晴らしい縦走路であったと軽く反省したが、明日の予定も決めなくてはならない。飲みながらパ

パンフレットを研究し、これは良いとバスツアーに申し込んだらゴールデンウィーク中だけの特別企画であった。しょうがないのでタクシー貸し切りプランを検討し、先ほどのタクシー運転手に電話した。「パンフレットではこの値段でやっているけどお宅はもう少し安くならない？」と交渉すると、とてもその値段では無理とのことであった。それではと、パンフレットのタクシー会社に明日の予約をすると、直後に先ほどの運転手から電話があって、我々のプランだと4時間以上かかるので、本来1時間6,300円もらわなければならないのだが、20,000円でなんとかやります、とのことであった。急いで先ほどの予約をキャンセルし、と酔っぱらう暇もないくらいであったが、何とか明日の予定が確定した。

18時から食堂での夕食だが、夕食を取る人は数人しかいない。満室のロードレース参加者は、夜遅く着くのかもかもしれない。3階建てなのにエレベーターが無く、カーペットも擦り切れているさびれた旅館ではあるが、刺身や塩辛がおいしかった。食後は後藤さんの人生相談が始まり2回目の入浴を挟んで24時過ぎまで続いた。

15日(日)、今日も天気が良く湖の向こうには金北山が見えている。朝風呂に入って7時からの朝食を撮っていると、数人しかいなかった食堂に20人以上の団体が現れた。観光バスでやって来た堺のツアー客であった。岩井さんのリサーチでは、金北山の縦走ではなくアオネバ付近を歩いて今夜はこの宿に泊まるらしい。

団体よりお先に我々はタクシーで8時に出発する。まずは佐渡と言ったら外せない「たらい舟」である。小木港の近くまで1時間近くタクシーを走らせる。実際のたらい船は一人乗りだそうだが、観光用は女性の船頭さんの他に2人の客が載れる大型である。こんな丸い船を一本の魯で良く焦げるものだと感心したが、慣れれば難しくないそうだ。その後宿根木の古い町並みや復元された千石船を見る。あちこちに古い能舞台があるのは、京都から流された貴人が多いので庶民にも流行したからだとか。

お昼になったので運転手お勧めの食堂に向かうが、1軒目は貸し切り2軒目は満席、3軒目は休業とついていない。空腹の後藤さんには我慢してもらってトキの森公園を見終わった頃には14時を過ぎており、両津港には14時30分ごろ着いた。値切ったにもかかわらず、手抜きをせずに真面目に観光案内をしてくれた運転手さんに感謝して30,000円お支払いさせていただいたところ大変感激してくれた。真面目な運転手さんなので皆さんも機会がありましたらご利用ください。両津港で遅めの昼食と生ビールを飲んで満足し、帰りは全員ジェットfoilと新幹線を利用して20時過ぎに新宿で解散した。

今回はお天気に恵まれ、シラネアオイやカタクリの花と縦走を満喫することができた。今年は暖冬でほとんど雪が無かったができれば雪割草も見かけた、というのは贅沢であろうが、ぜひ再チャレンジしてみたい。三浦さん、宿の手配等お手数をおかけしました。そしてご参加の皆様ありがとうございました。

(伊藤)